

荒川区教育委員会
教育長 高梨 博和 様

荒川区立尾久八幡中学校
校長 稲葉 裕之

学校関係者評価報告書

令和5年度の教育活動の評価結果及び改善方針について、下記のとおり報告します。

記

評価項目1 「学校全体の様子」				
*肯定的な評価（A+B評価）の年度別推移（以下同じ）				
	R3	⇒	R4	⇒ <u>R5</u>
生徒	88.4%	⇒	90.0%	⇒ <u>90.9%</u>
保護者	88.8%	⇒	88.6%	⇒ <u>94.7%</u>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 概ね満足できる評価である。どの観点においても、保護者の評価の向上が見られる。 ○ 「生徒が生き生きと楽しい学校生活を送れた」の項目で、生徒95%、保護者97%の高い評価であり、学校の意義や教育活動が評価されたことは、価値のあることである。 ○ 生徒理解を深め、効果的な言葉かけを意識し、生徒の自己肯定感を高めていく。 				
評価項目2 「学力向上の取組」				
	R3	⇒	R4	⇒ <u>R5</u>
生徒	81.6%	⇒	76.6%	⇒ <u>76.0%</u>
保護者	72.6%	⇒	74.2%	⇒ <u>82.1%</u>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的に悪い評価ではないが、図書館活用と学習習慣については課題が残る。 ○ 分かる授業や学習習慣、図書館活用において、教員と生徒の共通理解のもと、意識して計画的に学校全体で取り組む。また、取組が効果的なものとなるよう、実施方法などの工夫・改善を行っていく。 				
評価項目3 「社会性・人間性の育成」				
	R3	⇒	R4	⇒ <u>R5</u>
生徒	85.4%	⇒	85.8%	⇒ <u>88.6%</u>
保護者	79.6%	⇒	79.2%	⇒ <u>90.0%</u>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 人間関係づくりの項目において、生徒評価96%、保護者評価98%と満足のできる評価である。学校行事など、生徒主体の活動の定着が高評価につながっていると感じる。 ○ 教育相談の経験が少ない生徒がいるため、評価を下げていることもうかがえる。今後も人権教育や道徳教育の理解を深め、自他を大切に、他者を尊重できる心を育成していく。 				

評価項目4「保護者・地域との連携」

	R3	⇒	R4	⇒	R5
生徒	71.2%	⇒	75.2%	⇒	<u>79.0%</u>
保護者	76.6%	⇒	78.4%	⇒	<u>89.4%</u>

- コロナの制限が解除となり、学校が本来の教育活動を行えるようになってきたことが、保護者評価が向上している。今後も保護者との協力し合える関係づくりを構築していく。
- 保護者・地域と連携を進める中で、今後も説明責任が果たせるよう努力する。
- 地域行事等に参加できる状況になってきたことは嬉しいことである。

評価項目5「特色ある教育活動」

	R3	⇒	R4	⇒	R5
生徒	84.6%	⇒	88.8%	⇒	<u>72.8%</u>
保護者	78.2%	⇒	83.4%	⇒	<u>91.6%</u>

- 昨年度と評価内容が異なるため、一概には比較できないが、校訓「礼節・品格」や学習のUD化については、教職員が意識して取り組んできた結果、生徒にも浸透し、満足のできる評価になったと考える。
- JRC活動や学習意欲については、今後の課題となる。

評価結果を受けての学校の改善方針

- ◎ 本校教育活動の成果を生徒たちのより良い姿としてあらわす努力を絶えず行っていく。
 - [学校全体の様子]
 - ・ 生徒たちが主体となって、生き生きと学校生活が送れよう、絆づくりと居場所づくりを図り、生徒が安心できる学校づくりを推進する。
 - ・ 生徒一人一人に「寄り添い、認め、励ます」ことをポイントに生徒を幸せにする学校づくりに努める。
 - [学力向上の取組]
 - ・ 授業改善を進めるとともに、学びの場を保障する学校づくりの中で、確かな学力の定着・向上を図る。
 - ・ 家庭学習の定着や図書館の活用について、実施方法や指導内容の工夫・改善を図る。
 - [社会性・人間性の育成]
 - ・ 教育相談の活用・充実をさらに進め、いじめや不登校の防止に取り組み、生徒が自己有用感を味わうことができる学校づくりに努める。また、生徒の自治的な活動を保障し、適切な支援を行う。
 - [保護者・地域との連携]
 - ・ 保護者会や学校行事の工夫や充実にも努めるとともに、情報発信を積極的に行っていく。
 - ・ 保護者や地域の意見や要望を受け止める中で、保護者との協力し合える関係づくりを構築していく。
 - [学校の特色ある活動]
 - ・ 校訓「文武両道」「礼節・品格」のもと、学校教育活動を充実させていくとともに、JRC活動やボランティア活動の充実、教育のUD化をさらに推進していく。